

## 2018 年度第 2 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q1 : 車両事業における今回の悪化の根本原因は何ですか？</p>	<p>A1 : 国内は飽和状態で厳しい競争環境にあり、車両事業を持続的に成長させるためには海外、特に約 40 年に亘って取り組んでいる米国市場を維持する必要があります。海外案件には色々なリスクがあり、きめ細かいリスク管理と契約履行能力等、高度なオペレーションが求められますが、米国での事業が拡大していく中で、リスクに対する管理が甘くなっていたと考えています。</p>
<p>Q2 : 車両事業再建委員会では具体的にどのような検討を行いますか？</p>	<p>A2 : 車両事業再建委員会には、高度なプロジェクト案件を遂行しているエネルギー・環境プラントや、設計・工作・品質保証に高い能力を持つ航空宇宙システムから各分野のエキスパートを投入し、現在不足している能力を補うことで、今後も事業継続が可能かの検証を行います。それらの施策で対応できるのであれば、このまま事業を継続しますが、単独では再建が困難という結論に至れば、他社とのアライアンスや撤退も含めあらゆる選択肢を排除せず、検討を行います。その判断基準は、基本的には ROIC8% が達成できるか否かで判断します。第一には各カンパニーからの補強による自助努力で生き残ることを模索してまいります。</p>
<p>Q3 : 車両事業再建の検討スケジュールを教えてください。</p>	<p>A3 : 年度内を目標に再建の結論を出したいと考えています。</p>
<p>Q4 : 今後の車両案件の新規受注の方針を教えてください。</p>	<p>A4 : 現在は無理のないコストダウンで受注できる案件獲得を目指しています。具体的には、初めての顧客からの受注では新規設計等で苦勞することが多いため、過去から継続的に取引がある顧客や、リピート車両の受注を目指しています。また、既に 4,500 両の納入実績のある米国で既納入車両のメンテナンス事業等を受注できるよう、鋭意、営業活動を行っています。このような低いリスクで確実に利益を獲得できる案件の受注に注力する方針に転換しています。</p>

## 2018 年度第 2 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q5 : 最近受注した R211 でも同様の損失が発生する可能性がありますか?</p>	<p>A5 : ニューヨーク地下鉄に対して、1982 年に受注した R62 を皮切りに、過去から様々な案件に参画して、比較的順調に案件を履行しています。既に当社製の納入車両は 2,100 両を超え、最大のシェアとなっており、R211 がオプション分を含めてすべて納入されれば、当社納入車両はニューヨーク地下鉄が保有する車両の過半となります。過去の案件においても適正な利益を計上できており、今回受注した R211 は比較的有利な価格・条件で受注できましたので、利益を確保できる案件と考えています。</p>
<p>Q6 : 車両事業の将来性およびその環境下における当社の車両事業の活路をどのように考えていますか?</p>	<p>A6 : 車両事業には将来性があると考えています。世界では信号やシステムを含めた規模拡大のための業界再編が進んでいますが、車両事業は個々の顧客の仕様に基づき製造するため、スケールメリットが働かないと考えています。当社は車両製造に専念して、案件に応じて信号・通信システム供給者等と組んで対応しており、米国、シンガポール、台湾ではトップシェアとなっています。今後、アジアでは約 2,000 両の円借款での車両調達が見込まれ、当社の技術力やアフターサービス体制があれば、今後も米国・アジア市場で持続的に成長できると考えています。だからこそ、自助努力で再建を果たすことが第一の目標と考えています。</p>
<p>Q7 : 車両事業、船舶海洋事業ともに大きな回復は期待できませんが、2019 年度以降の業績を下支えする事業や動きで何か期待を持てるものはありますか?</p>	<p>A7 : 2020 年、2021 年頃に大きな期待を持てる事業はいくつかありますが、それまでは精密機械・ロボットが牽引役の中心となり、ジェットエンジンやエネルギー・環境プラントがそれに追隨する形となります。MC&amp;E には安定収益を期待しています。</p>
<p>Q8 : MC&amp;E は上期▲46 億円、下期 216 億円という計画になっています。下期において急に増益となる理由は何ですか?</p>	<p>A8 : MC&amp;E では下期に 2019 年度のニューモデルを発表し、生産をピッチアップさせ、2019 年春の販売に向けて販売代理店に仕入れてもらうというビジネスのサイクルになっています。そのため、例年、利益の殆どが 4Q に計上されます。</p>

## 2018 年度第 2 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q9 : Trent1000 関連で今回計上された費用はどのように算出していますか。また、今後、追加費用が計上される可能性はありますか？</p>	<p>A9 : 基本的には Rolls Royce 社の上期決算における公表値に基づいて計算しています。Rolls Royce 社が一時的な費用として計上している 5 億 5,400 万 £ が Rolls Royce 社の負担額であり、それに対応する当社の負担額を今回計上しています。一時的に発生する巨額な費用は今回の計上のみと考えており、今後はトータルケアパッケージ費用の一部として発生していきます。</p>

以上